

鎌倉市気候非常事態宣言

今、地球はかつてないほどの危機に瀕しています。
世界各地で、猛暑、干ばつ、集中豪雨や超大型台風等の異常気象による甚大な被害が発生し、私たち人類の生命を脅かしています。

気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の報告書によると、気候システムの温暖化は疑う余地がないこと、自然的要因だけでなく人間による影響が近年の温暖化の支配的な要因であった可能性が極めて高いこと、気候変動はすべての大陸と海洋にわたり、自然及び人間社会に影響を与えていること、温室効果ガスの継続的な排出は、更なる温暖化と気候システムの全ての要素に長期にわたる変化をもたらし、それにより、人々や生態系にとって深刻で広範囲にわたる影響を生じる可能性が高まるとされています。

この危機に対処するため、世界では「脱炭素」社会を目指した動きが加速しています。

この地球に生きるものは、誰も気候変動の影響から逃れることはできません。しかし、未来の地球のためにできることがあります。

地球の危機、人類の危機を救うことができるのは、私たち一人ひとりの行動です。

本市は、SDGs 未来都市として、地球温暖化による気候変動の対策に注力して持続可能な社会を実現するため、ここに気候非常事態であることを宣言します。

- 1 気候危機の現状について市民や事業者と情報を共有し、協働して全力で気候変動対策に取り組みます。
- 2 2050年までに温室効果ガス排出を実質ゼロにすることを目指します。
- 3 市民の命を守るため、気候変動の適応策として風水害対策等を強化します。

みらいの地球のために脱炭素を目指す「緩和策」と今ある危機に対応する「適応策」を進めます。

令和2年（2020年）2月7日
鎌倉市長 松尾 崇

■令和2年度予算の主な取組

- スマートシティ推進事業（スマートシティ構想に基づくまちづくりの推進）
10,154 千円
- 史跡環境整備事業（史跡の崩落対策工事の実施）
148,119 千円
- 緑政運営事業（緑の基本計画に基づく施策展開による、緑豊かな都市環境の形成と市民の安全・快適な生活の確保）
5,322 千円
- 緑地取得事業（保全すべき緑地の確保）
88,246 千円
- 緑化啓発事業（緑地及び都市公園等の機能の向上）
6,940 千円
- 緑地保全事業（貴重な歴史的遺産と融合した緑地や豊かな自然環境の保全）
41,098 千円
- 樹林維持管理事業（樹林地の適切な維持管理によるみどりの質の向上）
26,378 千円
- 緑地維持管理事業（緑地の適切な維持管理によるみどりの質の向上）
54,336 千円
- 緑地維持管理計画推進事業（樹木の剪定・伐採等の計画的な維持管理）
6,935 千円
- 公園維持管理事業（公園の適切な維持管理によるみどりの質の向上）
327,113 千円
- 公園整備事業（（仮称）山崎・台峯緑地の整備など、都市公園を地域コミュニティの創出や、防災・環境負荷の軽減を図る場所としての整備）
198,963 千円
- 公園用地取得事業（（仮称）山崎・台峯緑地など、都市公園を地域のコミュニティの創出や、防災・環境負荷の軽減を図る場所としての整備用地の確保）
546,760 千円
- ごみ資源化事業（資源化及びリサイクル率の向上）
748,153 千円
- 3R推進事業（ごみの発生抑制・減量・資源化、プラスチックごみの削減等）
37,784 千円
- 海浜保全事業（ごみの散乱のない良好な海浜を保全、漂着ごみ・海中ごみの回収及び処分等）
468 千円
- 環境基本計画等推進事業（カーボン・マネジメント強化事業の実施、再生可能エネルギー・省エネ機器導入の促進、環境教育の実施、環境保全活動の普及・啓発）
18,863 千円
- 防災運営事業（強靱化の視点に立った総合的な自然災害対策）
2,665 千円

● 避難対策推進事業（災害発生時における避難路の整備、避難所体制の整備）	<u>72,834 千円</u>
● 防災活動事業（自主防災組織の育成強化、平常時から地域における相互支援体制の整備）	<u>15,830 千円</u>
● かけ地対策事業（かけ崩れ及び土砂流出等による災害に予防対策として、急傾斜地崩壊危険区域等での防災工事の促進）	<u>95,369 千円</u>
● 警防活動事業（災害活動の強化・充実など）	<u>68,436 千円</u>
● 救急活動事業（熱中症の予防啓発や対処法の周知）	<u>23,847 千円</u>
● 交通体系整備事業（（仮称）鎌倉ロードプライシングや新たな交通システムの導入などを通じて、自動車利用を抑制する交通需要マネジメントを推進し、環境に配慮した快適な移動環境の創造）	<u>16,331 千円</u>
● 橋りょう維持補修事業（橋りょうの計画的な修繕を進め、強靱化を図り、安全で快適な道路空間を確保）	<u>154,867 千円</u>
● 街路樹維持管理事業（街路樹の適切な維持管理によるみどりの質の向上）	<u>30,703 千円</u>
● 下水道事業（浸水対策として、雨水排水施設の修繕や浚渫・清掃などを行い、良好な状態で維持管理を実施）	<u>229,485 千円</u>
● 河川維持補修事業（河川・水路施設の維持管理や計画的な整備により、局所的な集中豪雨等による浸水被害を軽減）	<u>153,378 千円</u>
● エシカル消費推進事業（人や社会、エコ商品の選ぶなどの環境に配慮した消費行動の理解と定着）	<u>276 千円</u>
	<u>総額 3,129,653 千円</u>

※ 掲載した事業費については、予算の小事業単位で集計していますので一部、取組に直接的に関連しない事業費も含まれています。

今後、脱炭素社会に向けて様々な技術革新が進展することが想定されることから、その動向も見ながら取組を進めます。